

# 補助費等で補足答申

## 補助金は五千万円をメドに

今年一月から市長の諮問により財政再建の審議を続けていた財政再建審議会（松本二朗会長ら市議員十五名）は、去る五月四日の中間答申に続き六月十六日、当面する諸問題についての補足答申をしました。

この答申によると、財政再建審議会は執行上の若干の留意点として、「市長は非常に困難な情勢を克服しながら財政再建に関する方策をたて、昭和五十一年度予算を編成したところであるが、答申の基本的精神に反するような公約等があり、五月臨時市議会で予算案が一部修正されるなどの問題が生じた。市長は予算措置等答申の具体化にあたっては、今後はこのような事態が生じないように特に慎重な配慮が必要である」としています。

まず、補助費、扶助費については、去る六月十六日の第十五回目の審議会において、各委員から次のような意見が出されています。



「現在のままでは事業費はわずか一千三百万円しかない。災害なども想定して、補助金をあまり優先すべきではない。いくら財政危機だからといって、事業費がわずかでは市民は納得しない。補助金をもっと削減すべきだ。補助金は基礎財政需要額（本市の場合二十億円）の二割程度の四千万円に抑えるべきだ」など厳しいもの

「今回の答申では、『年間総額を基礎財政需要額の三百以内とし、そのメドは二・五割（五千万円）で努力すべきである』と述べています。

これにより、先の五月臨時市議会までにすでに三千三百万円を予算化している関係上、二・五割の五千円がメドになると、残り一千七百万円が予算化する額となります。

また、失業対策事業に関する扶助費は「昭和五十年実績を確実に下まわすように抑制に努め、効果的に住民福祉に直結する経費の財源拡充を図るべきである」としています。

続いて、赤字の外的要因の解消については、「国の制度改革を伴うものであり、短期間での解決はとうてい望めない。が、地方自治を拡充強化し住民福祉の増進を図ること、あるいは住民の自治意識の昂揚を図ることを考えた場合、

### 戸籍の閲覧には赤いリボン

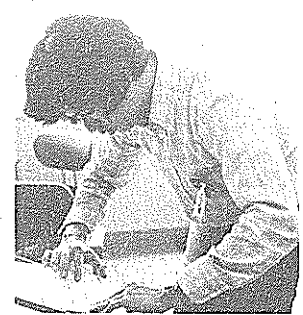
戸籍や住民基本台帳を閲覧する市民の方には、胸に赤いリボンをつけてもらうことになりました。

これは、閲覧する人や団体が年ごとに増えたところから、混雑をきたしたり、閲覧者であることの表示をお願いするものです。

また、個人のプライバシーを守るため、昨年四月から戸籍の閲覧を制限し、市民のプライバシーを保護することの出来ない問題である。そこで、市民・議会・市が一体となり、市長会・議長会へのはたらきかけ、議会の意見書提出、さらには市独自の要求運動などあらゆる方法でこの運動を展開しなければならぬ」としています。

最後に、累積赤字十八億円とも言われる市土地開発公社については「直接の諮問事項ではないが、健全な運営についての対策が、緊急なものとして構えられなければならない」と提言しています。

なお、財政再建審議会の任期は二年間であり、本答申における不備な点や、基本的な方針を修正しなければならぬ問題が生じた場合は、任期中、長期的な再建の適宜審議をするものです。



### 市一番の長寿ばあさん

市史編さんのための資料を募集していますが、このなかからめずらしい文章がみつかりました。

この文章にでてくるおばあさんは南園市一番の長寿者ではないかと思われ、そこで紹介します。

浜改田村溝澤氏系図（東京大学史料編さん所蔵）土佐諸家系図十四（四）

磯之丞  
妻ハ名カネ元文三戊午年生嘉永三成年一十三歳二成耳能ク聞へ目能ク見エ木綿ヲ引百九ツノ時木綿一反大守豊熙公様へ差上ル百十四歳ニテ卒ス  
女名曹免 前浜村直七妻  
右直七八十七歳ニテ卒  
幸六 行年八十一歳卒  
宇兵衛  
女里改田村  
磯平 父六十一ノ子  
孫四十人余有

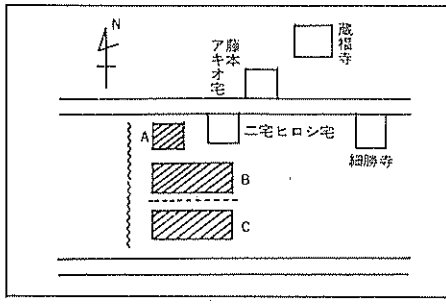
これによると「カネ」さんは元文三年つちのえうまの年（一七三八）に生まれ、嘉永三年いぬの年（一八五〇）百十三歳、翌年百十四歳で亡くなった。たいへん健康で百九歳のとき木綿一反を織って第十三代藩主豊熙公に献じたことになっている。

市民のみなさん、市史編さんの資料がありましたら、市役所の市史編さん室へお知らせください。さつそくお話をうかがいにまいります。とくに、明治以後の産業、文化、交通などの発達の記録が少なく困っています。みなさんのご協力をお待ちしています。

市史編さん室

# 田村西見当遺跡

## 発掘調査結果③



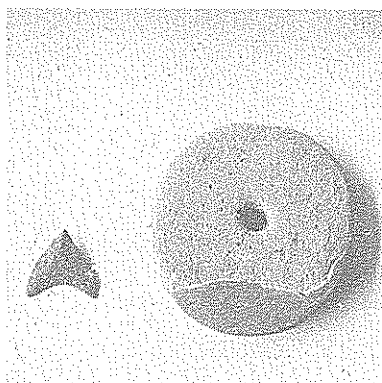
### 貯蔵穴からはシカやイノシシの骨も

B地区については約六十二平方メートルほど発掘しました。B地区より発見された遺構は、長方形の貯蔵穴2、浅い楕円形の貯蔵穴1、貯蔵穴に連結し貯蔵穴風に通じ込んだ小工房1、それに中央に柱穴一本を持ち、炉址を持つ長方形の竈穴住居風の工房などでした。この他にも小工房や貯蔵穴の周辺に何本かの柱穴や小ピットも見つかりました。

特にB地区の発掘での大成果はB-1と名づけた小工房、B-2 B-8と呼んだ長方形の貯蔵穴から、従来西見当式土器と称していた弥生式土器よりも古いと思われる、前期前半の土器群が発見されたことです。

それは、甕形は完全に如意形口縁になりきらず、それに列点文を持ち、口縁下の沈線が全くないもの、さらに甕形は口縁下だけ複合で厚く作り、胴部に有段部を持ち、有軸羽状文・縦平行線・横平行線・重弧文の比喩文を持つ古いタイプのものです。

またB-8の貯蔵穴には、特に晩期縄文系の入田B式土器の甕形から変化して、前期前半の甕形土器に移ろうとする完形土器も出土



紡錘車 糸を紡ぐための道具。真中の穴に棒を通し、これに紡いだ糸を巻く。磨製石鏃・粘板岩で作られ、特に柄のあるのが田村遺跡の特色である。

しています。これらの土器群の出現により、従来呼称していた西見当式土器よりも模式的に古く位置づけられますので、この古いタイプの土器の様式を西見当式土器と称し、従来の前期中葉の西見当式土器を西見当式と呼びたいと思えます。

なお、貯蔵穴のB-8からは炭化物が多くみられたので、フルイにかけて精査した結果、炭化米、カモの骨・フナの子骨・シカやイノシシの骨片が発見されました。これで貯蔵穴に貯蔵していたものの一部が判明しました。B-1の小工房は、B-2の貯蔵穴と連結して、その連結部に物置きのための小ピットがあり、その横に土を掘りくぼめた腰掛があります。また、この工房外には二本の柱穴があり、その一本は機織具の経巻から出た紐をかける杭の穴

（このシリーズは今一回でおわりです。）

